

山口大学医学部&附属病院から笑顔と情報を発信!

山/大/医/学/部

Yamaguchi University Faculty of Medicine and Health Sciences / Yamaguchi University Hospital

病/院/だ/よ/り

10
2023

Vol.262



チェンマイ大学からの短期留学生を囲んで



手術支援ロボットのしくみ

本院には最新の手術支援ロボット「ダヴィンチXi」が2台あります。「ダヴィンチXi」には人間の関節可動域を超える多関節機能を持った4本のロボットアームがあり、3本が手術用アーム、1本がカメラ用アームになっています。この手術用アームの先端に、組織を「切る」「つかむ」「おさえる」「縫う」などの緻密な作業ができるアタッチメント(手術器具)を取り付けて手術を行っています。



精密な動きを再現するロボットアーム



Da Vinci Xi

手術支援ロボット「ダヴィンチXi」



ロボット支援下手術

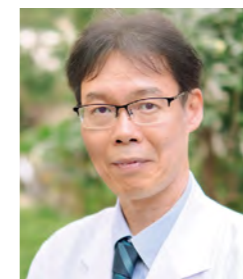
「ダヴィンチXi」の最大の特徴は4本のロボットアームが、旧式と異なり吊り下げ式になったこと。これにより、よりコンパクトに操作できるようになり、狭い部位へのアプローチがしやすくなりました。また、レーザーで手術部位の焦点を合わせることができるため、腎部分切除のような特殊な体位の手術も可能です。

県内で「ダヴィンチ」を2台導入しているのは本院のみであり、現在、泌尿器科(腎、前立腺、膀胱)、呼吸器外科(肺、縦隔)、消化器外科(食道・胃)において、保険診療でのロボット支援下手術を行っています。

山口県内初の「ダヴィンチ」2台体制でチーム医療を推進



各診療科と看護師や臨床工学技士など、多くのスタッフが参加するカンファレンス



センター長 白石晃司 教授

このたび、山口大学医学部附属病院に「低侵襲手術センター」を設置しました。同センターは低侵襲手術の技術向上、安全性の追求および教育・研究を目的としています。患者さんに安心・安全な外科医療を提供できるよう、外科、泌尿器科、産科婦人科などの診療科が連携。白石晃司センター長のもと、科の垣根を越えた横断的なセンターとして、看護師、臨床工学技士など多くの医療スタッフも加わり、知識や技術を共有し、チーム医療を推進しています。

低侵襲手術とは？

低侵襲手術とは、体への負担(侵襲)が小さい手術のことで、いわゆる内視鏡下手術です。手術の方法としては体に複数の小さな穴(ポート)を開け、その穴から特殊な細い器具と内視鏡カメラを挿入し、医師が映像をモニターテレビで確認しながら器具を動かして手術を行います。手術の種類としては「胸腔鏡下手術」「腹腔鏡下手術」「ロボット支援下手術」などがあります。

低侵襲手術のメリット

- 手術中の出血量が少ない
- 手術後の疼痛が小さい
- 合併症のリスクが軽減できる



医師が遠隔で操作し手術を行う

手術支援ロボットは こうして動く

手術支援ロボット「ダヴィンチXi」は、サージョンコンソールと呼ばれる操縦席に医師が座って遠隔で操作します。医師が見ているコンソールモニターに映し出される映像は、高画質の3D映像。ズームインやズームアウトも自在で、医師の手さばきをロボットアームが精密に再現し、手術を行います。

お知らせ Information

参加
無料

12月2日(土) 市民公開講座を開催

令和5年12月2日(土)15時より、本院オーデトリウムで低侵襲手術をテーマにした市民公開講座を開催します。参加は無料ですので、ぜひご来院ください。

患者さんの体に負担が少ない外科医療を提供 低侵襲手術センターを設置

IVRとは?

IVR (Interventional Radiology) とは、X線透視やCT、血管造影、超音波など体の内部を映した画像を確認しながら、カテーテルと呼ばれる細い管や針などを使って行う検査や治療のことです。外科手術とは違った低侵襲の治療で、患者さんの体に負担が少ないのが特長です。良悪性腫瘍や大動脈瘤、血管奇形、心疾患などの血管に関する治療から、生検やドレナージなど幅広い疾患の治療に対応しています。



IVR



このたび、山口大学医学部附属病院に「血管内治療（IVR）・放射線診断治療センター」を開設しました。同センターではIVRを行う消化器内科や循環器内科、脳神経外科、第一外科、放射線科など、複数の診療科が連携することでさらなる技術の向上を目指すとともに、患者さんにより安心・安全な医療を提供しています。

より安心・安全な医療を
IVRを行う複数の診療科が連携

血管内治療(IVR)・放射線 診断治療センターを開設



A棟にある血管撮像装置。X線は下から照射され、FPDが画像に変換する

CT / MRI / RI どう違う?

CT、MRI、RI、アルファベット表記が並ぶ医療用語ですが、その違いを比べてみました。

CT検査 放射線（X線）を利用した検査。検査時間は比較的短い（10分程度）。

MRI検査 強い磁石と電磁波を利用した検査。検査時間は比較的長い（30分程度）。

RI検査 ラジオアイソトープといわれる放射性医薬品を利用した検査。

最新鋭CT、MRIで 高精度の画像診断が可能

本院の放射線診断では、AI技術が搭載された次世代型CTやMRIを導入しています。撮像した画像に不鮮明なノイズがあればAIが自動でノイズを除去し、高画質・高精細な画像に変換したうえで画像解析・診断が可能です。CTにおいては、以前よりも少ない放射線量で高精細な画像が撮影できるので、患者さんにとっても安心です。



次世代型CT、MRIによる高精度の画像診断

山大病院からのお願い

診察時、毎回の名前確認にご協力を

毎年9月17日は「世界患者安全の日」。2023年のテーマ

は「Engaging patients for patient safety（患者と取り組む安全の確保と向上）」です。本院でも9月19日（火）～10月18日（水）の1か月間、医療の質・安全管理部による医療安全キャンペーンを実施。院内を巡回し、患者さんの誤認防止を目的とした啓発活動を行っています。

キャンペーンのポスターをクリアファイルにして配布しました



ヤマミイもキャンペーンに参加しました

キャンペーン開始日の9月19日（火）には、外来棟1階において、同部職員6名がキャンペーンカラーであるオレンジ色のTシャツを着て特製のクリアファイルを患者さんに配布しながら、診察や検査などでの毎回の名前確認の申告にご協力をお願いしました。

医療安全の基本は名前確認から。治療にはたくさんの医療者が関わっており、患者さんの誤認防止のためには毎回の名前確認が必要不可欠です。ご協力をお願いいたします。

放射線科 核医学治療病室をリニューアル

令和5年4月、放射線科の核医学「R」診療病室が新しくなりました。病室の数を1床から2床に増やし、それぞれに広めのトイレとシャワールームを設置しました。

「核医学」とは、ラジオアイソトープと呼ばれる、ごく微量の放射線を出す薬（放射性医薬品）を体内に投与または服用し、病気の診断や治療をする専門分野です。ラジオアイソトープを略して「R」とも呼ばれています。核医学には検査と治療があり、検査は脳や心臓、骨などさまざまな臓器の診断に、治療は甲状腺がんやバセドウ病などに、甲状腺の病気の治療に利用されています。また、神経内分泌腫瘍に対する治療として「ペプチド受容体放射性核種療法」を開始しましたが、山口県内では本院が唯一この治療法を実施しています。



核医学[R]診療病室



B棟にある核医学[R]検査室

T チェンマイ大学の短期留学生を受け入れ



研究活動の様子

山口大学医学部保健学科では、8月21日(月)から9月1日(金)の2週間、タイの国立大学であるチェンマイ大学の短期留学生の受け入れを行いました。留学生は Miss APICHAYA LAONAN、Miss PUNNAPORN SRISITHAN、Mr. PORAWAT APHIMONBUT の3名です。期間中、Miss PUNNAPORN は基礎検査学講座(小林由紀先生ゼミ)、Miss APICHAYA は病態検査学講座(山城安啓先生ゼミ)、Mr. PORAWAT は同講座(山本美佐先生ゼミ)において、各々がテーマに基づき研究活動を行いました。

また、学生国際交流の一環として、8月27日(日)には留学生3名と医学部保健学科の学生2名とで、岩国・柳井へ小旅行をしました。岩国では錦帯橋や岩国城などを見学し、柳井では金魚ちょうちんの製作体験や醤油ソフトクリームを楽しみました。天気にも恵まれ、充実した日帰り旅でした。

最終日の9月1日(金)には、留学生3名がそれぞれの研究について報告を行いました。発表後は修了式を行い、一人一人に修了証と記念品が贈呈されました。式後に開かれた立食形式のお別れランチでは、食事後に留学生と先生や学生たちが一緒に写真を撮ったり、篠田晃医学部長によるサクソ演奏が



Miss PUNNAPORNの発表



修了式後に全員で記念撮影(前列左の3名が留学生)



ロープウェイで岩国城へ



初めての金魚ちょうちん製作体験



浴衣の試着も

あつたりと、とてもアットホームな雰囲気でした。

留学生の Mr. PORAWAT は「お金があれば容易に日本へ来ることができるが、今回のような経験はどれだけお金があったとしてもできるものではない。この留学は自分にとって最高の経験だった」と話してくれました。

今後も山口大学医学部では、海外の学生との国際交流を通して、世界で活躍する医療人の育成に力を入れていきます。

T 第1回 宇部・山陽小野田・美祢圏域感染対策地域連携圏域協議会を開催

8月17日(木)、本院A棟1階オーデトリウムで、令和5年度第1回宇部・山陽小野田・美祢圏域感染対策地域連携圏域協議会を開催しました。本協議会は3つの市にまたがる大きな圏域の医療機関等多職種で連携した県内初の協議会であり、全国でも珍しい取り組みです。会では初めに会長や主幹の選出があり、初代会長に本院の松永和人病院長が、主幹に本学が選出されました。

会場およびWEBのハイブリッド形式で開催された本会には149名が参加し、カンファレンスでは感染対策向上加算やJ-SIPHEに登録したサーベイランスデータの共有について説明がありました。その後に行われた新興感染症の発生等を想定したゾーニング訓練では、予め設定されたシチュエーションに基づき、参加者全員で対応についてシミュレーションを行いました。



会長に選出された松永病院長による進行

～参加者のコメント～

本協議会を通して
圏域を越えて連携できる
のが良いですね

今後起こりうる
新興感染症にもしっかり
対応していきます

所属を越えた
つながりや情報の共有が
できて良かったです



宇部興産中央病院
中尾亜紀子看護師



山口労災病院
村田裕美看護師



宇部興産中央病院
岡智之薬剤師

T 2023年度 治験功労者表彰式



受賞者のみなさん(手前右は松永病院長)

8月8日(火)、2023年度治験功労者表彰式を執り行いました。この表彰は、治験の推進に特に顕著な功績があった個人および団体を表彰するものです。式では、松永和人病院長から治験症例を多く登録した医師および団体を表彰するとともに、治験を円滑に進めるために貢献された団体に敢闘賞、特別賞を贈呈しました。また、治験への貢献に対する謝辞ならびに今後のさらなる活躍を期待する旨の祝辞がありました。2023年度の受賞者は次のとおりです。

■個人賞

- 第一位：泌尿器科……………小林圭太 助教
- 第二位：泌尿器科……………平田 寛 講師
- 第三位：呼吸器・感染症内科…大石景士 助教
- 第三位：精神科神経科……………樋口文宏 講師

■団体賞

精神科神経科

■敢闘賞

精神科神経科臨床心理士
総合外来看護師
医療情報部

■特別賞

第二内科



治験功労者に表彰状を授与

T 文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）」に認定

本学医学部の「データサイエンス応用基礎プログラム（医学部）」が、8月25日付で文部科学省から「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）」に認定されました。

この認定制度は、数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術について体系的な教育を行う大学などを文部科学大臣が認定及び選定して奨励するものです。リテラシーレベルとその上位の応用基礎レベルの2種類があります。

本学においては、令和3年度にリテラシーレベル教育プログラム「データ科学と社会」（全学部対象）が「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」に認定されています。



応用基礎レベルの認定制度は昨年度から開始され、本学においては、昨年度に工学部が、そして今年度に医学部と理学部が認定されました。また、国内の医学部で応用基礎レベルに認定されているのは現時点で本学を含めて3大学のみです。

山口大学応用基礎レベル教育プログラム(医学部)
の詳細はこちらから▶



お知らせ Information

医学部公式Instagram開設



このたび山口大学医学部では公式Instagramを開設しました。キャンパスの風景や病院のトピックス、医学部ならではのお役立ち情報、県内のおすすめスポットなどを発信していきます。

フォローは
こちらから▶



Instagram

公開講座のお知らせ

第6回 緩和ケア市民公開講座 自分らしい人生を生き抜くために

- 11月23日(木・祝) 10:00~12:30(9:30開場)
- 山口大学医学部附属病院 A棟1階オーデトリウム
- 参加無料

参加
無料

生殖医療センター主催 ラジオ公開講座 「カップルで考えよう!不妊治療」

- 12月11日(月) 18:00~
- FMきらら:80.4MHz



公式FacebookとInstagramで
山大医学部・病院の情報を発信中



Facebook

企画発行 山口大学医学部広報委員会 / 山口大学医学部総務課広報・国際係
〒755-8505 山口県宇部市南小串一丁目1番1号 TEL 0836-22-2111
医学部 <https://www.yamaguchi-u.ac.jp/med/>
附属病院 <http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/>